

I nterview

このお顔、ケーブルテレビのジェイコムチャンネルをご覧の方なら、誰でもご存じでしょう。そう、ケイニイ、こと、古川桂次郎さん。地域情報番組「ジモトピたまろくと」と街の随所で生中継する「いまどこ!?イレブン」に出演中。今回は地元で人気バツグンの古川桂次郎さんの素顔に迫りました。



多摩六都は、西東京市が旧田無市と旧保谷市の時代に6市で構成されていたことから名づけられたもの。



「ジモトピたまろくと」J:COMチャンネル東京 地デジ11chで毎日18時から放送(他の時間帯もあり)「いまどこ!?イレブン」はYouTubeでもライブ配信中。



ミシェルさんと各地を訪れ「ジモトピたまろくと」撮影のひとつコマ。
(上から西東京市、東久留米市、小平市の各所を調査中)(写真提供 J:COM 西東京)

ジェイコム西東京エリアの 人気者

「ジモトピたまろくと」は小平市、東久留米市、清瀬市、東村山市、西東京市の食、人、イベント、生活に関わる地元の「知りたい」情報を「ジモト調査隊」として各所に出向く番組。桂次郎さんが可愛く元気な藤崎ミシェルさんとの軽妙なコンビで、たまろくとエリアのさまざまな所に出没?します。近くの場所や店、見知った人が登場するので、ケーブルテレビならではの親近感にあふれた、多摩六都の魅力を詰め込んだ番組です。

ある時は東村山のソース会社、ポールスターのおいしいソースの秘密を調査するため工場を見学したり...、またある時は西東京市にある銭湯に行き、湯船の壁絵を調査したり...。はたまた、

小平にある花の摘み取り農園や自転車工房の人たちのサイクリングイベントに参加したり...。何でもこなすマルチレポーターです。桂次郎さんの明るく爽やかな笑顔、屈託のない自然体のレポートに「ケイニイ」ファンが増殖中。口ケを見に来て、差し入れするファンもいるとか。

MCとして 情報を面白く伝えたい

青森県八戸市出身。19歳の時に役者を目指して上京。主に舞台を中心に活動していましたが、その後モデル事務所所属し17年間モデルとして活躍。テレビCM、雑誌、広告など、幅広くこなしていました。そんな折ジェイコム全国版のMC(司会、進行役)オーディションを見事獲得し、以来ジェイ

J:COMチャンネル「ジモトピたまろくと」で 地元盛り上げ中!

「ジモトピたまろくと」MC 古川桂次郎さん

コムの番組への出演が続いています。

「ジモトピたまろくと」の前には「むさしのウエスタン」、またその前の「ぐーたま」などずっとこの地域に関わってきました。今も週に2、3回はロケや生中継のために通ってきます。

「ジモトピ」の仕事をしている時は楽しいですね。ディレクターが面白いことが好きな人なので、僕もこういう風になってみたいと提案すると、やらせてくれるんですよ。自分たちが楽しまなきゃ、面白さが伝わらないでしょう? 情報をきっちり伝えることも大事だけれど、肩の力を抜いて楽しんで見ていただけたらいいですね」

素顔の桂次郎さんも画面の中と同様、少年のようなさわやかな笑顔が絶やさない。周りをホンワカとした空気に包んでしまうマジックの持ち主なのか。生中継の「いまどこ!? イレブン」ではケイニイではなく、時々別キャラクターに変身します。畑のことなら何でもお任せの「畑太郎(畑太郎)」やハリウッド出身ながら南部なまりを話す「ビューティ古川」、新キャラとしては熱血スポーツ男子の「桂次郎(かつらじろう)」など。「コミカルなキャラもピタリとキマルのはさすがです」。

プラス思考で日々を楽しむ

身長180センチ、イケメン、独身、彼女なし? ならば「どんな女性がタ

イプですか」と訊ねると「笑顔の女性が好き。僕がくだらないことを話しても笑ってくれる人。どこかいませんか」と周りを見渡して照れ笑い。赤い糸でつながっている女性がどこかにいるはずですよ。

独身ながら、日々の暮らしを楽しむ達人。2011年2月以来1日も休まず更新を続けているブログには、「今日も青空でハッピー」「通り道で小さな花を見つけて感動」など、毎日の小さな喜びが写真とともに綴られています。料理も作り、パンも焼き、甘辛両党、毎日お香をたくほどのお香好き。こんな繊細な面があるかと思うと、かつてはハーレーダビッドソンを乗りこなししていたというアウトドア派の面も。「何でもやってみたりやで、すぐ感動できる得な性格」と自分のことを表現しますが、それが番組にも活かされているのでしょう。

何よりプラス思考の桂次郎さんも昨年は試練の年でした。持病のヘルニアが悪化し昨秋2回手術。「その前の1年間は、痛みのため10m×30m位しか、連続で歩くことが出来ず、ちよくちよく待ってもらって、休みながらのロケでしたので大変でした」。番組をひと月休み、その間ミシェルさんが孤軍奮闘。毎回ケイニイの写真看板を出してくれて、最後は病院から声のみの出演。皆の温かい気持ちがあっけなかったか。

「いろいろ悩んでいても時間がもったいない」が信条。20代の頃は哲学的な人生の啓発本などを読んで、考えることも多かったそうですが、それを経たからこそ得た「なんなら、から元気でいい」という前向き姿勢で、腰痛もほとんど回復させました。

多摩六都を盛り上げたい

「お祭りや東村山のAOBAバアーバアーの方々と一緒に、僕は女装してパラパラを踊ったのは楽しかったですね。多摩六都の地域でヘンな人に出たことがない。みなさんびっくりするくらい、いい方ばかりです。いい街だし、自然とうまく調和していますね」

今、ギターに凝っている。「弾くのではなく、いじるんですけど(笑)。昨年11月、東村山どんこい祭の特設ステージで、ミシェルさんとともに作った「たまろくとの愛」と題する歌を披露。5市の名が散りばめられ、「ああ、笑顔あふれる街たまろくと」と地元愛がこめられた歌です。これからは「音楽でも多摩六都を盛り上げたい。もっと面白くなるのでは」と語る。

今日も近くの街でロケ中の、桂次郎さんとミシェルさんに出会えるかも?、それより番組と一緒に出てみるのがいいですね。